

自転車ハンドブック

～自転車の安全利用のために～

小学生向け指導者用



平成 27 年 4 月 発行

発行元 兵庫県

企画県民部地域安全課交通安全室

連絡先 078-341-7711

監 修 兵庫県警察本部交通部交通企画課



兵 庫 県

目次

1 小学生に対する交通安全教育の目的 …… 1

2 小学生に対する自転車安全教育の基本的な心得 …… 1

- (1) 目標 …… 1
- (2) 基本的事項 …… 1
- (3) 発達に応じた指導 …… 2
- (4) 小学生の交通事故発生状況 …… 2

3 自転車利用者の心得 …… 3

- (1) 自転車に関する基本的な事項 …… 3
- (2) 自転車の正しい乗り方の実践 …… 4
- (3) 自転車安全利用五則の実践 …… 4
- (4) 交通事故の場合の措置 …… 9
- (5) 自転車を駐輪する場合の措置 …… 10

4 保護者に対する啓発 …… 11

5 条例制定の経緯 …… 13

6 自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例 …… 14

1 小学生に対する交通安全教育の目的

小学生は、幼児期に比べて自転車の利用等により、行動範囲が広がり、また、高学年になると保護者から離れて道路において単独又は複数で行動する機会が増えます。

小学生に対する交通安全教育は、自転車の利用者として必要な技能と知識を習得させるとともに、道路及び交通の状況に応じて、道路を安全に通行するために、危険の予測、回避できる知識と能力を高めることを目的とします。

2 小学生に対する自転車安全教育の基本的な心得

(1) 目標

交通ルール等を習得することにより、安全に自転車を利用して道路を通行できるようにすることを目的とします。

安全に乗れるようになるまでは道路を通行しないように指導しましょう！

自転車の練習は道路外の安全な場所で！

(2) 基本的事項

道路交通法上自転車は車両です。

道路を通行する場合には、車両として交通ルールを遵守し、交通マナーを実践していくことを理解させましょう。

3 自転車利用者の心得

(3) 発達に応じた指導

- 低学年
「止まる」「見る」「待つ」といった安全確認の基本と基本的なルールの習得
- 中学年
自転車利用者としての必要な技能・知識の習得
- 高学年
交通ルール等が定められている理由、交通ルールを遵守し、交通マナーを実践していくことの必要性について、自ら考えさせる

(4) 小学生の自転車事故発生状況

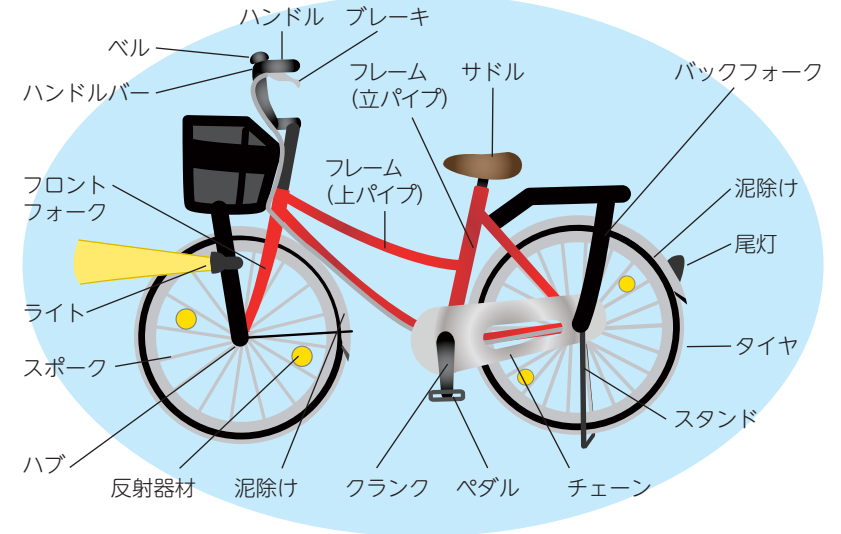
小学生の自転車事故については、安全不確認や一時不停止などの原因による出会い頭の事故が多く、時間帯は下校後の夕方（16時～18時）が最も多くなっています。

自宅に帰ってから、遊びに出かけたり、習い事へ出かけたりと、幼児期に比べて行動範囲が著しく広がり、保護者の監視下から離れることなどが要因としてあげられます。



(1) 自転車に関する基本的な事項

● 自転車の各部名称



● 点検整備

ぶたはしゃべる (例)



- ブレーキの効き具合と左右の違い
- タイヤの空気圧、溝、パンクの有無
- ハンドルは前の車輪と直角に固定されているか
- 車体の点検
サドルの高さは適正か、固定されているか
ペダル、チェーンは適切に設置されているか
- ライトが点くか、尾灯や反射器材が装着されているか
- ベルは確実に鳴るか

(2) 自転車の正しい乗り方の実践

自転車に乗る時は、見とおしのきく道路の左端で、安全を確かめて左側から自転車にまたがり、基本姿勢（左足は地面、右足はペダル）をとります。発進する前に、左右、右後ろの安全を確かめてから発進します。

車道では左側を走り、停止する時は、後方の安全を確かめてから左（後輪）のブレーキを先にかけ、次に右（前輪）のブレーキも使って十分に速度を落とし、左足を地面につけ停止し、自転車の左側へ降ります。

5つの左（自転車の正しい乗り方の例）

- ・ 左から乗る
- ・ 車道は左側を走る
- ・ 左からブレーキ
- ・ 左足は地面、右足はペダル（停車時）
- ・ 左から降りる

(3) 自転車安全利用五則の実践

自転車安全利用五則を元に基本的な事項について指導していきましょう。

自転車安全利用五則

- ① 自転車は、車道が原則、歩道は例外
- ② 車道は左側を通行
- ③ 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
- ④ 安全ルールを守る
 - ・ 飲酒運転、二人乗り、並進の禁止
 - ・ 夜間はライト点灯
 - ・ 交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
- ⑤ 子どもはヘルメットを着用

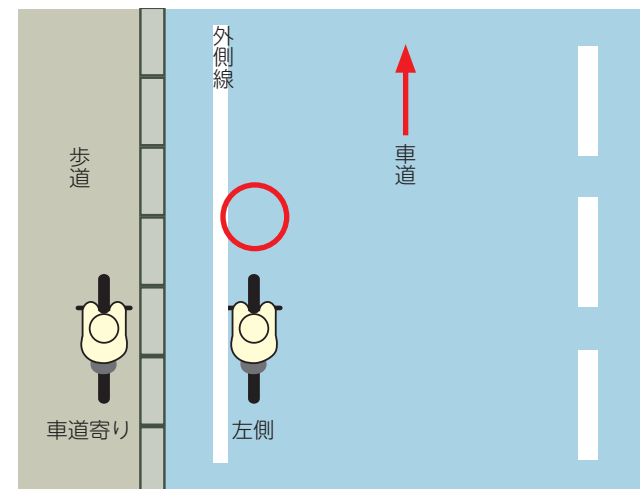
- ① 自転車は、車道が原則、歩道は例外
- ② 車道は左側を通行
- ③ 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行

自転車は車両ですので、原則として車道の左側部分の左側端に寄って通行します。

しかし、法律により70歳以上の高齢者や幼児・児童は歩道を通行することができます。

歩道を通行する際は車道寄りを徐行し、歩行者がいる場合は一度止まるか、自転車から降りて押して歩くように指導しましょう。

※ 幼児は6歳未満、児童は13歳未満を示す。

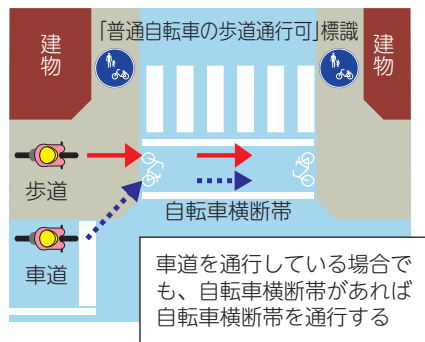


徐行とはすぐにとまれるスピードです!!
歩行者が多い時はとまって、
押して歩くよう指導しましょう。

● 自転車横断帯の通行方法

自転車横断帯がある場合は自転車横断帯を通行しなければなりません。

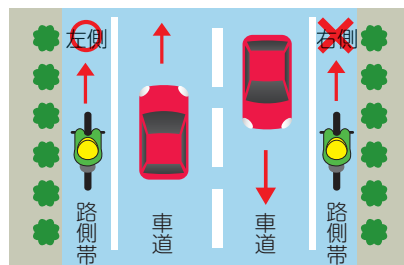
横断歩道しかない場合は横断歩道を渡ることができますが、歩行者がいれば押して歩くように指導しましょう。



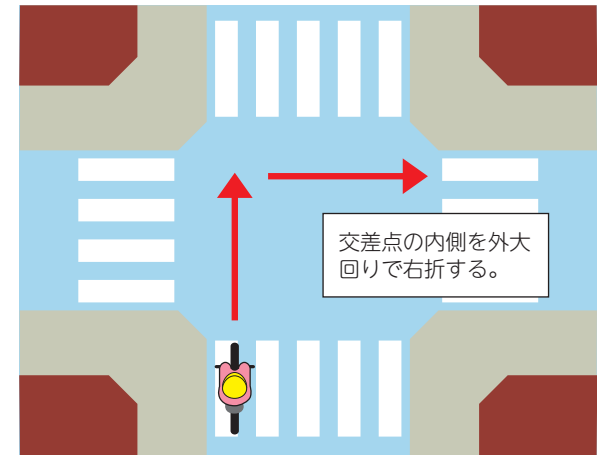
● 路側帯の通行方法

路側帯を通行する場合は、道路の左側にある路側帯を通行しなければなりません。

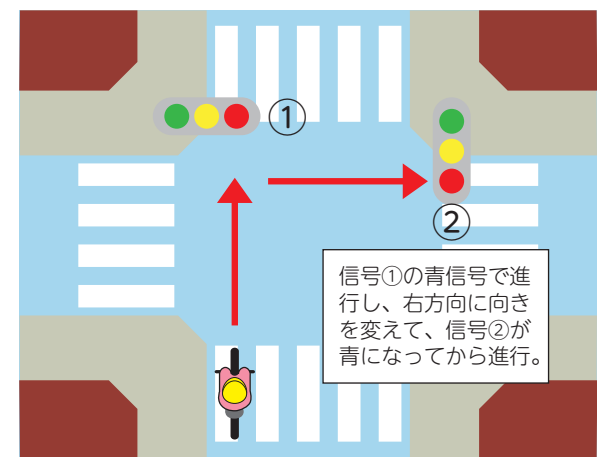
※ 路側帯とは歩道のない道路に白い線で区切られた外側の部分をいいます。



● 交差点の右折方法



信号のない場合



信号がある場合

④ 安全ルールを守る

● 二人乗りの禁止

後ろの人は転倒するなどで大けがをするおそれがあります！
バランスが崩れて危険！



● 並進の禁止

前から歩行者や車などが来た時に避けることができず、並んでい
る自転車同士のハンドル等がぶつ
かり転倒するおそれがあります。

● 夜間はライト点灯

無灯火では前方の安全確認
が十分にできません！
車からも見えにくくなり、
事故に遭いやすくなります！
早めのライト点灯をするよ
う指導しましょう。



● 反射器材の取付け

車輪の側面への反射器材の取付けを行なうよう指導しましよ
う。

● 交差点での信号遵守と一時停止・安全確認

自転車乗車中の死者の中では信号無視や一時不停止の違反が
多くなっています！
信号は必ず確認し、守るように指導しましょう。

自転車も「止まれ」では必ず止まるように指導しましょう。
見とおしが悪いところは、停止線で一時停止をした後に、もう
一度止まって確認するこ
とが大切です！（安全の
ための二段階停止の指
導）



⑤ 子どもはヘルメットを着用

ヘルメットはいのちを守る大切なものです。
あごひもに緩みのない確実な装着を指導し
ましょう。
(いざというときに外れてしまいます！)

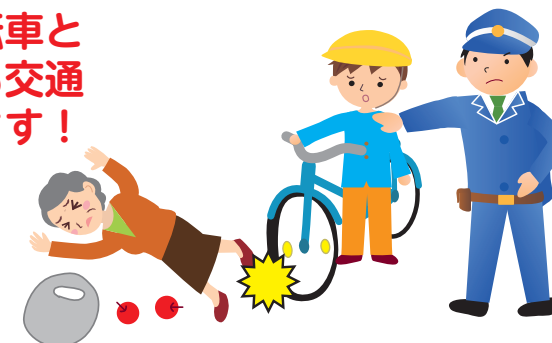


(4) 交通事故の場合の措置

- 現場にいる人に助けを求める
- 親、先生に連絡する (してもらう)
- 110番通報をする (してもらう)

といった基本事項を指導しましょう。

歩行者や自転車と ぶつかっても交通 事故になります！



相手がけがをしていたら…

- まわりの人に助けをもとめる
- 119番通報をする（してもらう）
- 相手の人を介抱する

ということも指導しましょう。

子どもは事故をすると、悪いことをしたと思うことが多いようです。

痛くても、大丈夫と言ってしまったり、その場を立ち去ってしまったりすることがあります。

交通事故に遭った場合、立ち去らず適切な措置をとるよう
に指導しましょう。

(5) 自転車を駐輪する場合の措置

駐輪場に駐輪するよう指導しましょう。

駐輪場以外の場所への自転車の駐輪が、歩行者や他の交通の支障になることを自覚するなど、マナー向上に努めていくように指導しましょう。

また、点字ブロックの上には自転車を置かないように指導しましょう。



4 保護者に対する啓発

子どもへの指導に合わせて、以下の項目について保護者へ啓発していきましょう！

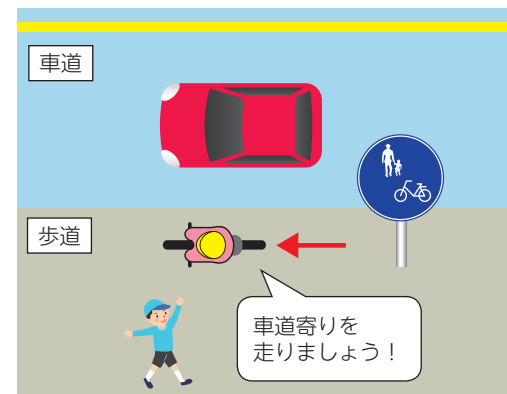
・ 交通安全は家庭から

普段から、子どもと交通安全について話し合ひましょう。
子どもは親の姿を見ている。

保護者自身が交通ルールを守り、交通マナーを高めていきましょう。

・ 自転車の通行方法

平成19年の道路交通法の改正（平成20年6月施行）により、13歳未満の子どもは、歩道を通行できるようになりましたが、中学生になると、「普通自転車の歩道通行可」標識がある場合や車道又は交通の状況から、車道を通行することが危険である場合のほかは、車道を通行することが原則となります。



「普通自転車の歩道通行可」標識

・ 自転車の点検・整備

児童の自転車の整備は保護者の責任です。
定期的に点検し、児童と一緒に点検して指導しましょう。
整備が必要な自転車には乗せないようにしましょう！

- 子どもはヘルメット等を着用
頭部のけがは大けがに直結します。
子どものために、きちんとヘルメットや手袋などの被害軽減器具
を着用させましょう！



- 自転車保険への加入
近年、交通事故の加害者となった自転車利用者に対する高額賠償
が命じられる判決が出ています。

**条例により、自転車利用者には損害賠償保険
への加入が義務化されます！
(平成27年10月1日施行)**

義務化の対象となる保険等は？

自転車事故により生じた他人の生命又は身体の損害を補償することが
できる保険等へ加入しなければなりません。

加入していない方は、自分や子どもに合った保険等を選択して加入し
ましょう。

※ 保険等…自転車を利用中に、誤って他人にケガをさせた場合の損害
を補償する保険（個人賠償責任保険）や共済、またはT Sマーク付帯
保険などをいう。

近年の高額賠償事例

- ・ **9520万円** 神戸地裁 平成25年7月4日判決
- ・ **9266万円** 東京地裁 平成20年6月5日判決
- ・ **6779万円** 東京地裁 平成15年9月30日判決

5 条例制定の経緯

交通事故の発生件数は年々減少傾向にある中、自転車が関係する事故
の割合は20パーセント以上を占め、歩行者と自転車の事故は増加傾向に
あるほか、自転車側に対する高額な損害賠償事例も見られます。

このため、県としては、自転車の交通ルールの遵守・マナーの向上、
事故への備えとしての自転車保険の加入促進、自転車が安全に通行でき
る道路環境の整備等を規定した「自転車の安全で適正な利用の促進に関
する条例」を制定し
ました。県民運動と
して社会全体で安全
適正利用に関する意
識の向上や自転車事
故の未然防止などに
取り組んでいきます。



(目的)

第1条 この条例は、自転車（道路交通法（昭和35年法律第105号）第2条第1項第11号の2に規定する自転車をいう。以下同じ。）の安全で適正な利用（以下「自転車の安全適正利用」という。）に関し、県民、事業者及び交通安全に関する活動を行う団体（以下「交通安全団体」という。）の役割並びに県及び市町の責務を明らかにするとともに、県が実施する施策の基本的事項を定めることにより、県民、事業者、交通安全団体、市町及び県が協働して自転車の安全適正利用に関する運動を展開し、もって歩行者、自転車等が安全に通行し、かつ、県民が安心して暮らすことができる地域社会の実現に寄与することを目的とする。

(県民の役割)

第2条 県民は、自転車の安全適正利用に関する理解を深め、自転車の利用に関する道路交通法その他の関係法令（以下「自転車関係法令」という。）の遵守、自転車の利用に関する知識の習得、家庭、地域等における自転車の安全な利用の啓発その他の自転車の安全適正利用に関する取組を自主的かつ積極的に行うよう努めるものとする。

2 県民は、国、県及び市町が実施する自転車の安全適正利用の促進に関する施策に協力するよう努めるものとする。

(事業者の役割)

第3条 事業者は、自転車の安全適正利用に関する理解を深め、その事業活動を通じた自転車関係法令の遵守に関する啓発その他の自転車の安全適正利用に関する取組を自主的かつ積極的に行うよう努めるものとする。

2 事業者は、国、県及び市町が実施する自転車の安全適正利用の促進に関する施策に協力するよう努めるものとする。

(交通安全団体の役割)

第4条 交通安全団体は、自転車関係法令の遵守に関する啓発その他の自転車の安全適正利用に関する活動を企画し、県民の参画を得て、積極的に推進するよう努めるものとする。

(県の責務)

第5条 県は、県民、事業者、交通安全団体、市町及び国との相互の連携

及び協力の下、自転車の安全適正利用の促進に関する基本的かつ総合的な施策を策定し、これを実施するとともに、県民、事業者及び交通安全団体の自転車の安全適正利用に関する運動を支援するため、情報の提供その他の必要な措置を講ずるものとする。

(市町の責務)

第6条 市町は、前条の県の施策に準じた施策及びその区域の状況に応じた自転車の安全適正利用の促進に関する施策を策定し、及び実施するよう努めなければならない。

2 市町は、前項の施策の実施に当たっては、県との相互の連携及び協力の下、当該施策を効果的に実施するよう努めなければならない。

(県の交通安全教育等)

第7条 県は、県民に対し、自転車の安全適正利用に関する交通安全教育及び啓発を行うものとする。

(保護者等の教育)

第8条 保護者（親権を行う者、未成年後見人その他の者で、未成年者を現に監護するものをいう。以下同じ。）は、その監護する未成年者が自転車を安全で適正に利用することができるよう、必要な教育を行うよう努めなければならない。

2 学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校並びに同法第124条に規定する専修学校及び同法第134条第1項に規定する各種学校の長は、その児童、生徒又は学生が自転車を安全で適正に利用することができるよう、必要な教育を行うよう努めなければならない。

3 事業者は、その従業者に対し、自転車関係法令の遵守、自転車に係る点検及び整備の必要性等について、必要な教育を行うよう努めなければならない。

(高齢者の同居者等の助言)

第9条 高齢者の同居者等は、高齢者に対し、乗車用ヘルメットの着用その他の自転車の安全適正利用に関する事項について必要な助言をするよう努めなければならない。

(自転車小売業者等の情報提供)

第10条 自転車の小売を業とする者（以下「自転車小売業者」という。）及び自転車の貸付けを業とする者（以下「自転車貸付業者」という。）は、自転車を購入しようとする者及び自転車を借り受けようとする者に対し、自転車の安全適正利用に関して必要な情報の提供を行うようにするものとする。

（自転車の安全適正利用）

第11条 自転車を利用する者（以下「自転車利用者」という。）は、自転車関係法令を遵守するとともに、歩行者、自動車等の通行に十分配慮して自転車を利用しなければならない。

2 自転車利用者は、夜間に道路（道路交通法第2条第1項第1号に規定する道路をいう。以下同じ。）で自転車を利用する場合は、前照灯を点灯するとともに、自転車関係法令に定める反射器材を備えた自転車又は尾灯を点灯した自転車を利用しなければならない。

3 前項の場合においては、自転車利用者は、自転車の車輪の側面に反射器材を備えたものを利用するよう努めなければならない。

4 保護者は、その監護する幼児又は児童を道路で自転車に乗車させるときは、当該幼児又は児童に対し、乗車用ヘルメットその他の交通事故による被害の軽減に資する器具を使用させるよう努めなければならない。

（自転車の点検及び整備）

第12条 自転車利用者、自転車貸付業者その他事業活動において自転車を利用させる者は、その利用又は事業の用に供する自転車について、必要な点検及び整備を行うようにするものとする。

2 保護者は、その監護する未成年者が利用する自転車について、必要な点検及び整備を行うようにするものとする。

（自転車損害賠償保険等の加入）

第13条 自転車利用者は、自転車損害賠償保険等（その自転車の利用に係る事故により生じた他人の生命又は身体の損害を填補することができる保険又は共済をいう。以下同じ。）に加入しなければならない。ただし、当該自転車利用者以外の者により、当該利用に係る自転車損害賠償保険等の加入の措置が講じられているときは、この限りでない。

2 保護者は、その監護する未成年者が自転車を利用するときは、当該利

用に係る自転車損害賠償保険等に加入しなければならない。ただし、当該保護者以外の者により、当該利用に係る自転車損害賠償保険等の加入の措置が講じられているときは、この限りでない。

3 事業者は、その事業活動において従業者に自転車を利用させるときは、当該利用に係る自転車損害賠償保険等に加入しなければならない。

（自転車損害賠償保険等の加入の確認等）

第14条 自転車小売業者は、自転車を販売するときは、当該自転車を購入しようとする者（以下「自転車購入者」という。）に対し、当該自転車の利用に係る自転車損害賠償保険等の加入の措置の有無を確認しなければならない。

2 自転車小売業者は、当該自転車の利用に係る自転車損害賠償保険等の加入の措置が講じられていることを確認できないときは、当該自転車購入者に対し、自転車損害賠償保険等の加入に関する情報を提供し、自転車損害賠償保険等の加入を勧めるようにするものとする。

3 前2項の規定は、自転車貸付業者が自転車を貸し付けるときについて準用する。

（自転車損害賠償保険等に関する情報提供）

第15条 県、交通安全団体、自転車損害賠償保険等を引き受ける保険者等は、自転車損害賠償保険等に加入する者の利便に資するため、相互の連携及び協力の下、自転車損害賠償保険等に関する情報の提供その他の措置を講ずるよう努めなければならない。

（環境の整備等）

第16条 県は、歩行者、自転車等が安全に通行することができるよう、自転車道、自転車レーン等の整備に努めるとともに、市町等が行う放置されている自転車の撤去、自転車駐車場の整備等について必要な支援を行うよう努めるものとする。

（補則）

第17条 この条例の施行に関して必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、平成27年4月1日から施行する。ただし、第13条及び第14条の規定は、同年10月1日から施行する。